

2004年1月19日

エリクソン社
ソニー株式会社**ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズの2003年度第4四半期業績：
利益計上、成長が続く**

エリクソン社（以下“エリクソン”）とソニー株式会社（以下“ソニー”）は本日、両社折半出資の携帯電話端末事業合弁会社、ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ AB（以下“ソニー・エリクソン”）の2003年度第4四半期（2003年10 - 12月期）業績を発表しました。ソニー・エリクソンは、当四半期においてさまざまな新製品を発売して GSM 方式および日本市場向けの製品ラインアップを拡充したこともあり、売上、販売台数ともに引き続き伸長しました。

当四半期のソニー・エリクソンの販売台数は、前年同期比 13%増の 800 万台となりました。当四半期の売上は同 16%増の 14 億 3,700 万ユーロとなり、税引前利益は 4,600 万ユーロとなりました。この中には、先般発表した米国における CDMA ビジネスおよびドイツのミュンヘンでの GSM 方式端末研究開発体制の構造改革における最終段階費用 900 万ユーロが含まれています。当期純利益は 4,300 万ユーロと、前年同期比 1 億 1,200 万ユーロの改善となりました。この業績改善は、GSM 方式の端末である T610 シリーズが引き続き成功を収めていること、日本市場向けに新製品を成功裡に導入できたこと、そして GSM 市場向けにハイエンドおよびエントリーレベル機を市場に導入したことによるものです。

2003年度におけるソニー・エリクソンの端末販売台数は前年度比 19%増の 2,720 万台、売上は同 12%増の 46 億 7,300 万ユーロとなりました。税引前損失は 1 億 3,000 万ユーロとなりましたが、これには構造改革費用として 6,300 万ユーロが含まれています。ソニー・エリクソンの戦略上重要な GSM 方式および日本市場向け端末の販売台数は、前年度に比べそれぞれ 50%、15%拡大しました。

ソニー・エリクソン井原勝美社長のコメント：「我々は、当四半期も前四半期に引き続き利益を計上し、好調な下半期業績を皆様に報告することができ、大変うれしく思います。ソニー・エリクソンは、当年度上半期から実施した構造改革を通じて、より健全な経営基盤を確立しました。また、2003年度を通じて、革新的かつエキサイティングという、その新たなブランドイメージを一層確固たるものとしたしました。日本市場向けの革新的な製品に加え、P900、T630、T230 や、GSM 方式としてソニー・エリクソン初の折りたたみ式端末である Z600、Z200 などの新製品による 2003年度下半期の成功が、今後のソニー・エリクソンのさらなる発展につながるものと自信を深めております。」

(単位：百万ユーロ)

	2002年度 第4四半期	2003年度 第3四半期	2003年度 第4四半期	2002年度	2003年度
販売台数(百万台)	7.1	7.1	8.0	22.9	27.2
売上	1,235	1,305	1,437	4,176	4,673
税引前利益(損失)	(77)	39	46	(291)	(130)
当期純利益(損失)	(69)	62	43	(241)	(86)

(注) ソニー・エリクソンは2001年10月、エリクソンとソニーにより設立されました。ソニー・エリクソンの業績は、50%の持分法適用会社としてエリクソン、ソニーそれぞれの業績に反映されます。

ソニー・エリクソンに関する詳細は右記 URL 参照：www.SonyEricsson.com

注意事項

この発表文には、ソニー・エリクソン固有のリスクや不確実な要素を含む将来の業績に関する見通しが記載されています。ソニー・エリクソンは、これら業績見通しとは大きく異なる結果を生じうる、特定の重要な要素を複数認識しています。これらリスク要素の詳細については、ソニーおよびエリクソン社が米国証券取引委員会に提出した書類、特に両社の最新版の年次報告書(フォーム20F)をご覧ください。

本件に関する報道関係からのお問合せ先：

エリクソン社

External Relations 電話：+46-8-719-2864

ソニー株式会社

広報センター 電話：03-5448-2200

本件に関する投資家関係からのお問合せ先：

エリクソン社

Investor Relations 電話：+46-8-719-0000

ソニー株式会社

IR オフィス 電話：03-5448-2180